

感謝の心をこめて

Challenge & Smile



平成25年9月26日

No. 13-193

株式会社 いよぎん地域経済研究センター

自転車を活用した愛媛・しまなみ海道の地域振興への提言

～誰もが楽しめる「サイクリストの聖地」を目指して！～

株式会社いよぎん地域経済研究センター（略称IRC、社長 山崎 正人）では、「自転車を活用した愛媛・しまなみ海道の地域振興への提言」をとりまとめましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、詳細は、2013年10月1日発行の「IRC Monthly」2013年10月号に掲載いたします。

記

【調査要旨】

- ・ 愛媛にはしまなみ海道を中心に国内外からサイクリング客が訪れている。しまなみ海道サイクリングの魅力は、何と云っても素晴らしい景色だが、ブルーラインやレンタサイクルシステム、休憩所などのハード面の充実とともに、イベントの開催や地元NPOによる活動などのソフト面の充実もその魅力を後押ししている。
- ・ 愛媛県では、「サイクリストの聖地」を目指し、走行環境の整備やマップの作成、Webサイトの構築、海外からのサイクリング客誘致などに取り組むとともに、「自転車の安全な利用の促進に関する条例」を施行し、ルール・マナーの向上にも努めている。
- ・ 愛媛大学サイクリング部の協力のもと、県内の主なサイクリングコースの現況について調査したところ、しまなみ海道サイクリングコースの完成度が高いことを再確認するとともに、その他のコースでも、おおむね良好な走行環境が整っていることが確認できた。ただ、市街地を外れると休憩場所や給水ポイントが不足しがちで、万が一のトラブル発生時にサポートを受けられない可能性もある。
- ・ 愛媛が「サイクリストの聖地」あるいは「サイクリングパラダイス」となるためには、「しまなみ海道サイクリングの取り組みを広域展開させる」「自転車道ネットワークを形成する」「効果的な情報提供・情報発信を行う」「おもてなしの心でサイクリストを迎える」「総合的・横断的な自転車利用振興計画を策定する」ことが求められる。

以上

私たちはチャレンジします。みなさまの笑顔のために。

NEWS RELEASE

株式会社 **伊予銀行** 愛媛県松山市南堀端町1番地 〒790-8514 TEL(089) 941-1141

1. 愛媛のサイクリングコースの現況調査

IRCでは、調査の一環として、愛媛大学サイクリング部の協力のもと、愛媛の代表的なサイクリングコースの現況を調査するとともに、道路管理者へのヒアリングを行った。調査対象は、下記の4コースである。

愛媛のサイクリングコースの現況調査

1. 調査目的：愛媛の代表的なサイクリングコースを実際に走行し、利用者目線で走行環境や休憩施設などの整備状況、周囲の景色・景観などを評価
2. 調査方法：対象コースの走行、道路管理者へのヒアリング
3. 調査時期：2013年7月～8月
4. 調査者：IRC、愛媛大学サイクリング部
5. 調査コース：
 - ①「しまなみ海道サイクリングロード」（県内区間約35km）
 - ②「坊っちゃん^{りん}輪・^{りん}輪ツーリング」（約62km）
 - ③「伊予灘シーサイド・がんがんチャレンジ」（約78km）
 - ④「重信川自転車道」（約25km）

調査コース



「しまなみ海道サイクリングロード」の現況	「坊っちゃん輪・輪ツーリング」の現況
<p style="text-align: center;">良いところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に快適に走行できる。 ・ 橋の上や海岸沿いからの景色は素晴らしい。 ・ 道の駅や観光施設が多数ある。休憩やトイレ、水分補給にも困らない。 ・ ブルーラインが引かれているので道に迷う心配がない。地図や施設の案内看板、標識も多く、迷うことなく目的の場所に行ける。 ・ レンタサイクルがあるため、特定区間だけ走りたい人や自転車を持っていない人でも気楽に走れる。 ・ サイクルスタンドの設置、サイクルオアシスやサイクルレスキューなど、自転車利用者向けの施設やサービスが多くて安心である。 	<p style="text-align: center;">良いところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大半の区間は起伏が少なく、路面の状態も良かったので初心者でも走りやすい。 ・ 平和通り（松山市）には、既に緑色の自転車レーンがある。市街地ながら、放置自転車もなくて走りやすい。 ・ 幹線道路に沿ったコースなので、道に迷う心配はほとんどない。 ・ 北条から今治市（大西町）あたりまでの海岸沿いの道は、景色がよい。
<p style="text-align: center;">注意点・改善してほしいところ</p>	<p style="text-align: center;">注意点・改善してほしいところ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行者や原付自転車と共用している区間は減速や一時停止が必要である。 ・ 橋への取付け道路や島内には、急カーブがあって、見通しが悪いのにカーブミラーのないところがある。 ・ オンラインマップやスマートフォンのナビ機能では、自転車道や橋の取付け道路が表示されなかったり、ルート設定できなかったりする。 ・ 橋の塔の部分は、陰になっていて見通しが悪い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ コース途中には自転車店がほとんどなく、トラブルに備えて工具などを持っていく必要がある。 ・ 国道 196 号の松山北条バイパス終点近くにある予讃線との交差点は車道の幅が狭い。車道よりも横にある歩道（自転車歩行者道）を走ったほうが安全である。 ・ 風和里から星の浦海浜公園まで、休憩できそうな場所・コンビニがほとんど見られなかった。また、休憩場所にはサイクルスタンドを設置して欲しい。
<p style="text-align: center;">「伊予灘シーサイド・がんがんチャレンジ」の現況</p>	<p style="text-align: center;">「重信川自転車道」の現況</p>
<p style="text-align: center;">良いところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に交通量は少ない。伊予市から大洲市（長浜町）付近までは平坦で走りやすい。 ・ ルートは幹線道路に沿っていて、ほとんど道なりに進むことができ、非常に分かりやすい。 <p>※当コースには、調査後の8月末までに主要交差点付近と5kmおきにブルーラインと標識・標示を設置済。</p>	<p style="text-align: center;">良いところ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的に走りやすい。市街地からも近く、初心者や子ども連れでも走りやすい。 ・ 車道と自転車道の交差点にブルーラインが引かれているところがある。ドライバーからも意識しやすい。 ・ 東温市の重信川沿いにある泉は、木が茂り、涼しくて休憩するのにちょうどよい。 ・ クールスモールや坊っちゃん劇場周辺にはサイクルスタンドが整備されており、スタンドのないスポーツバイクや子ども用自転車も快適に過ごせる。
<p style="text-align: center;">注意点・改善してほしいこと</p>	<p style="text-align: center;">注意点・改善してほしいところ</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 八幡浜市（保内町）からメロディーラインは、トンネルが多く内部はとても暗い。長浜大橋は車道端が狭い。 ・ メロディーライン（佐田岬半島）は、アップダウンの激しい道が続き、体力のない人には厳しい。観光目的で走るといより、走ることを目的とした体力のある人向けのコースである。 ・ 三崎港にフェリーが到着した後は、メロディーラインの交通量が多くなる。 ・ 休憩ポイントは、約 20km ごとに道の駅またはコンビニがあるが、その間に自動販売機はほとんどなく、給水できない。 ・ 公共交通機関が不便で自走以外の手段が乏しい。 ・ 佐田岬灯台までサイクリングコースになっていれば、ゴールしたときに記念になるし、達成感がありそうだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重信川沿い以外にも、こどもの城へのルートがある。ただ、自転車専用道ではなくて大型車も走行しており危険。道路標示・案内もなく、道に迷った。 ・ 河川敷は、草刈りができていなくて、草が自転車や体に当たるところがあった。 ・ 堤防上の自転車道には、給水設備のある休憩場所が少ないので、あらかじめ準備しておく必要がある。

2. 「サイクリストの聖地を目指して」～まとめと提言～

★「しまなみ海道サイクリングの取り組みを広域展開させる」

しまなみ海道のサイクリングコースは、さらなるブラッシュアップで、世界トップレベルのサイクリングコースとして整備・PR することが求められる。また、しまなみ海道のサイクリングコース整備をモデルに愛媛マルゴト自転車道の整備を進め、観光客増加・地域活性化につながるような取り組みが必要である。

★「自転車道ネットワークを形成する」

ネットワークによって連続的に整備された道路・走行空間であってこそ、自転車利用のメリットが発揮されることから、自転車道ネットワークの形成が望まれる。

愛媛マルゴト自転車道や四国一周、中四国・瀬戸内海周辺のサイクリングネットワークの構築にあたっては、自転車と他の交通機関との連携による利便性や周遊性の向上も求められる。

★「効果的な情報提供・情報発信を行う」

サイクリング客向けの情報提供・情報発信手段として、実績のあるしまなみ海道のブルーラインや標示・標識を全県に広げることが望まれる。

マップやガイドブックは、Web 版を作成・公開するとともに、観光地やグルメなど、地元ならではの有益な情報を提供することが重要である。また、「しまなみ海道のサイクリング客は、“ロコミ”で増えた」との声が多く、SNS の活用も、誘客増やサイクリング人口の拡大につながることを期待できる。

★「おもてなしの心でサイクリストを迎える」

四国には、お遍路、お接待の文化がある。地元住民が自転車で周遊するサイクリストとの交流を図ることも重要である。宿泊施設・公共交通機関への自転車持ち込みなどは、事業者の協力を得ながらさらなる利便性向上が求められる。サイクリングガイドの育成にも取り組んでいるが、温かいおもてなしの心でサイクリスト・観光客を迎えたい。

★「総合的・横断的な自転車利用振興計画を策定する」

「サイクリストの聖地」を目指し、持続的に発展させるためには、中長期的な愛媛県全体の自転車利用振興計画を策定し、車優先から自転車優先という政策的な位置付けを行い、計画に基づいた個別の事業推進や市町・民間との連携を進めることが必要と考えられる。

自転車は観光や健康、環境、まちづくりなど、多くの分野で大きなメリットを有するツールである。あらゆる部署が関わって、総合的・横断的に計画を策定し、事業を推進することが求められる。

(新藤 博之)